

奈良・奥大和で、
ハッピーな暮らしに
出逢ったひとたち。

Local Life 2

in Nara
Okuyamato

Local Life 2

in Nara
Okuyamato



今回登場いただいた方々も、奥大和での暮らしも、決して特別なものではありません。
今の暮らしや生き方に「？」がいたら、ぜひ奥大和を訪れてみてください。
フトコロふか〜い人々と豊かな山々が、あなたを待っています。

発行・問合せ：奥大和移住・定住連携協議会（事務局：奈良県移住・交流推進室 Tel.0744-48-3016）

Local Life
in Nara Okuyamato

このパンフレットに掲載している情報は、特に表記がない場合、2015年3月時点の有効な情報です。情報は変更となる場合がございますので、最新の情報や詳細については各施設へお問い合わせください。
本媒体の掲載金額は、消費税8%を含む総額表記です。

奥大和に暮らす
愉快的な面々の、
創造的日常生活。

Creative People in Okuyamato

豊かな自然と積み重なる時より、 日々アイデアは生まれ出ずる。

奈良県・奥大和。この地に魅せられ、あるいは幼き日より暮らす「クリエイティブ」な面々。
この地で生きること、働くこと、そして彼らが見つけたものとは。

奥大和は、奈良県南部と東部に広がる広大なエリア。近畿最高峰の山々に広がる森は、吉野杉や吉野檜に代表される良質な木々を育み、爽やかな風が吹く高原地帯や川沿いに湧く温泉は、いにしえより暮らす人々の生活と共にあった。近年、この地でクリエイティブな活動を行い、県内外で活躍する人々が増えている。移住、定住、Uターン…と形はさまざまだが、彼らを惹きつけ、創造のインスピレーションを与えている「何か」が、きっと奥大和にはある。豊かな自然、緩やかな時間、そして生きるための知恵…。彼らが語る言葉の中から、その「何か」を探し、感じてほしい。



★下市木工舎 市 ichi

吉野杉で世界に通用する魅力的な家具を、と設立された家具工房。県内外から移住した若者達が日々家具作りに奮闘中だ。

☎0747-68-9118
〒吉野郡下市町大字阿知賀61
曜8時30分～18時30分
休日曜

好きな仕事が社会貢献に繋がる。意識が少し変わりました。



兵庫県

下市町
Shimoichi-Cho

木工職人
森幸太郎さん

500年の森が育てた杉に、伝統の技が吹き込む命。

家具づくりの師匠・徳永さんが、新たに立ち上げた工房の代表を務めるため、下市町に移住してきた森さん。世界最古とも言われる植林が生む吉野杉を、刀鍛冶の伝統技術が生む鉋(かんな)の技で仕上げ、唯一無二の家具を作っている。「人の手で作った家具を多くの人に」という理想の元、集まった若い研修生達と共に技術を磨きながらの共同生活。「自分の好きな仕事」が、地域活性や若者の育成に繋がっている「日々は、かつてない充実感を感じているようだ。」

Q 移住してよかったことはありますか？

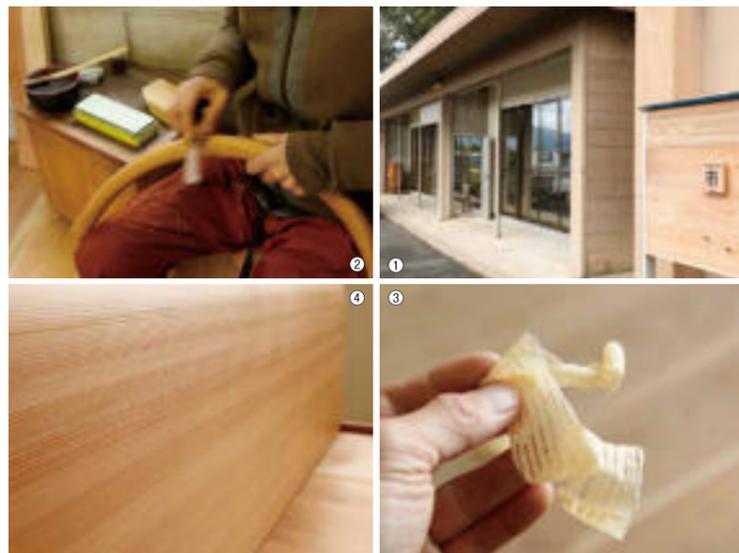
A 通勤がなくなったことですね。工房と居住する場所が同じなので、研修生たちがおいしいご飯を作ってくれるのも助かります。

Q 移住する前と後で印象は変わりましたか？

A 自然も多く面白そうなところがいいですね、と思いました。あと、田舎といっても意外に町に近く、ほどよい距離感だな。

Q 1日のスケジュールはどんな感じですか？

A 7時に朝食、8時半から仕事。昼は1時間休憩して、19時まで仕事。夕食後に鉋などの道具の手入れを2時間くらいしていますね。



①工房は、下市町の旧水道事業所の建物をリノベーションして使用している ②「鉋仕上げ」の技。薄皮を剥がすようにスムーズに削れていく ③木目と逆の方向でも、木の細胞を壊さず削れるほどの切れ味 ④「手触りがぜんぜん違うでしょ」と森さん。実際に鉋で仕上げた家具に触れると、肌に吸い付くような滑らかさだ

下市町長も
応援しています！

歴史ある吉野杉は町の誇り。町をあげてサポートします！

ご実家は製材所を営んでいるという松本町長。吉野杉を使った家具づくりや町おこしには並々ならぬ思い入れがあるそう。吉野杉のまっすぐで目の細かい材質は、500年の歴史に培われた独自の植林技術が生む、とのこと。「かつて林業で栄えたここ下市で、新たに吉野杉の魅力を発信してくれることに期待しています」と語って頂いた。

下市町長
松本龍昭さん

Q 移住のきっかけを教えてください。

A 家具職人の募集を見つけたので。都会でのハードワークや暮らしに限界を感じていたので、心機一転頑張ってみようと思いました。

Q 移住してよかったことはありますか？

A 共同生活をしていく中で、自分でも自覚していなかった癖や性格が洗い出されて、自分を見つめ直すよききっかけになりました。

Q 移住する前と後で変わったことは？

A 近隣の人たちのコミュニケーションが温かく、ほっこりしますね。東京に住んでいた頃には無かった人間関係で、新鮮です。

Q 移住のきっかけを教えてください。

A 大学時代は東京に住んでいました。下市町での家具職人の募集をみて「働きたい」と思い応募しました。

Q 移住の前と後で印象は変わりましたか？

A 吉野郡の広さには驚いています。移住してから、車をよく運転するようになりました。自然も多いので、色々出かけてみたいです。

Q 移住してよかったことはありますか？

A 都会の複雑さがないことです。仕事中心の生活ですが、余計なものがないので、好きな事に時間を費やすのもいいと思います。



静岡県

鈴木智浩さん

広い吉野のエリアを、色々巡ってみたいです。



東京都

白井 在さん

人との繋がりが温かく、道端に歴史が落ちてます。



生駒市

原 麗子さん

不便さと便利さのバランスがよいです。



田原本町

岡 充啓さん

生活リズムが整って、健康になりました。

Q 移住のきっかけを教えてください。

A もともと奈良県出身ですが大学時代は京都に住んでいました。下市町で家具工房ができるということで応募して、今に至ります。

Q 移住の前と後で印象は変わりましたか？

A 奈良県出身ながら、実は吉野のほうにはあまり来たことがなくて。実際に来たら、自然が豊かだということだなーと感じています。

Q 移住してよかったことはありますか？

A 周囲の環境もよく生活のリズムが整っているのがいいですね。リフレッシュすることも出来ますし、深く眠れるようになりました。

Q 地元で暮らすことのいいところは？

A やっぱ、両親にすぐに会いける距離にいるというのは、安心感があります。この先も生きていくなら地元がいいですね。

Q ほかと比べ奈良のいいところは？

A 観光地が多いので、色々巡れるのいいと思います。あと、田舎ですけど、程よく都会もあつて便利だなと思います。

Q 移住を考え中の人にアドバイスはどう？

A 車は生活必需品というか、無いと生きていけなかも。田んぼの景色は一日眺めていても飽きません。奈良はいいですよー

大淀町
Oyodo-Cho

定住

自然のそばで暮らすのは、
すごく大事なことだと思う。
あかり作家
坂本尚世さん

吉野山の日暮れのような、
癒しのあかりを灯して。

- Q** 移住を考えた人に
アドバイスはどうぞ。
- A** 基本的には、移住者に対してはウェルカムかと。勇気を出して「ミニミニ」に飛び込めば、地域の人が色々教えてくれますよ。
- Q** 現在の暮らしで大変なことは？
- A** 吉野はとこへ行くにも遠くて時間がかかるのが大変ですね。遠出したときに終電が早いのも不便かもしれません。
- Q** ほかと比べ奈良のいいところはどこ？
- A** 豊かな自然が人の暮らしのすぐ傍にあること、人と人の繋がりがあり、コミュニティがしっかりしていることですね。

★あかり工房 吉野

ライトテラピー（心を癒すあかり）で都会の人の生活の質を向上させたい、と坂本さん。ギャラリーには様々な作品が展示されている。

☎0746-32-5282 吉野郡大淀町北野13-12 朝10時～18時 日不定休※来店の際は必ず事前連絡を



作品に使用される木材。綺麗な目の細かい幅広の柾目は吉野檜ならではの美しさ

★玄朱 -genshu-

仕事場として使用されている一角には、大量の革や糸、縫製の道具などが所狭しと並び、古民家とは思えない独特の雰囲気。

☎吉野郡東吉野村大字小1684 ※現在開店準備中です。



幼き日より触れてきた物が、
人と自然を繋げていく。

- Q** 移住の前と後で印象は変わりましたか？
- A** わかる人だけわかる、コアな場所だと思っていました。移住後は、やっぱり奥が深く、もっと歴史を知りたくなりました。
- Q** 移住して大変だったことはなんですか？
- A** 引越して草刈ですかね。移住しなかつたら使うことはなかつたであろう、電動草刈機やチェーンソーの使い方を覚え直しました。
- Q** 移住を考えたの人にアドバイスはどうぞ。
- A** 協調性と行動力があれば、とても住みやすい場所です。不安がある時は現地の移住者に話を聞くのが近道だと思います。

幼少期より皮革製品に触れ、独学で加工技術を身につけてきた定さん。堺市で皮革製品の専門店を経営していたが、オーバーワークによる体調不良をきっかけに移住を決意。先に東吉野村に移住していた友人を頼りに家を探し、現住居に出会ったそう。現在、リゾート型の皮革加工の体験教室を計画中。豊かな自然とゆつたり時間の東吉野に通って、じっくり技術を学んでみたい、とのこと。まさに、ここでしか出来ない体験が楽しめるのだ。



カバン、キーケース、財布・・・靴以外なら何でも作れるそう。繊細で細かい彫りが施されたものもあり、下描きせずに直接彫っていくというから驚きだ

東吉野村
Higashiyoshino-Mura

堺市

ここでしかできない仕事を
生み出して行きたいですね。
皮革職人
定浩司さん



宇陀市
室生
Uda-Shi
Muroo

名張市

通いなれた道の景色が、
人生を変える場所でした。
ささゆり庵主・貿易商社経営
松林哲司さん

何もない里山から始める ニッポン・ルネッサンス。

★ささゆり庵

朝、山々から上る朝日が棚田を照らす景色は、心が透き通るような美しさ。この景色を求めて、多くの若者や外国人が訪れている。

☎0745-88-9402 宇陀市室生深野656 圖チェックイン15時/アウト11時



右/内装モダンで機能的な山人庵
左/窓の外には棚田の景色が広がる

「経済・物質優先の世界に身を置きながら、どこか違和感を覚えていました」と松林さん。名張から大阪に向かう通勤路で見ていた深野の里山で、棚田の古民家が空き家になったと聞きつけ訪れた松林さんが目にしたのは、若き放浪の日々にネパールで見た心の原風景だった。その古民家の屋根を茅で葺き替え「ささゆり庵」をオープンしたのが2014年。傍らに建てた貿易

会社の社屋「山人庵」と両輪で「懐かしき大切なもの」を人々の心に灯している。

Q 1日のスケジュールはどんな感じですか？

A 朝7時に社後、灯明を上げご神仏にご挨拶。法螺貝法楽、尺八練習演奏のあと仕事を始め、午後8時には退社します。

Q 現在の暮らしで大変なことは？

A 自分自身は元々田舎生まれですが、長らく都会生活にとどまりだったので、都会では事務所周辺での人間関係や付き合いは極めて淡泊ですが、田舎では、村の伝統的習慣や濃密な人間関係に慣れるまで自分自身を調整するのに困惑することが多いです。

Q 現在の暮らしでよかったことは？

A やはり、長時間の電車通勤がなくなったのはいいですね。日々、四季の変化を楽しめるのもありがたいです。

村を出て身に着けた技が、 ふるさとで今、花開く。

十津川村出身の岡さんは、物を作る仕事がしたいと20歳で熊本の家具工房に武者修行へ。7年間の修行で家具作りをマスターし、帰郷。奈良市内で「B'STYLE」をオープンした。当時、収益の半分はネット販売で、これなら環境を整えれば実家でもやって行ける、と帰郷を決意。故祖父の空き家を工房に改築し、新たなスタートを切った。現在はオーダー家具を製作しながら「十津川村家具プロジェクト」のメンバーとして、地元の地域活性に貢献中だ。

傷つきやすい無垢材だが、使う人には傷も思い出になる、と岡さん

昔からの知人やご近所さんに
喜んでもらえるのが嬉しい。
家具職人
岡浩也さん



十津川村
Totsukawa-Mura

熊本

Q 地元に戻られて印象は変わりましたか？

A 以前住んでいた時は人口も多く、子供もたくさんいたのですが、へうでは子供の数も少なくなり、賑やかさが減りました。

Q 戻られて大変だったことはなんですか？

A 九州から戻ったとき、方言を修正するのが大変でした。あと、十津川はお店の選択も少なく、買い物や食事は大変だなと思います。

Q 移住を考えた人にアドバイスをどうぞ。

A 十津川村にはモノは何にも無いですが、豊かな森と人情と、心身ともにリラックスできる空気と緩やかな時間があります。

★B'STYLE

地元十津川産の杉や檜の無垢材を使用したデスクやチェアが人気。一人生産体制なので数ヶ月の待ちが出ることもあるそうだ。

☎080-3139-8894 圖吉野郡十津川村平谷246-1 圖10時~18時 圖不定休※訪問の際は事前に連絡を



1300年続く伝統の技を明日に繋げていく日々。

日本書紀や古事記にも記述があるという吉野和紙。吉野川のほとりにある国栖(くず)の里で、伝統の技を今に継承する植さんは、5代目のお父さんと共に和紙工房を営んでいる。林業の不振や生活習慣の変化で後継者が減っていく中、植さんは高校卒業と同時に家業を継ぐことを選んだ。お父さんの技を見て覚え、体に染み込ませていった、という植さん。その技を生かし、伝統の吉野和紙をはじめ吉野杉や檜を使った新しい和紙作りにも取り組んでいる。



★植和紙工房

原料となる楮(コウゾ)を育てるところから始まる吉野和紙作り。吉野の水と天然素材を使い、伝統の製法を守っている。

☎0746-36-6134 吉野郡吉野町南大野237-1 園見学・体験等は要問合せ

- Q 1日のスケジュールはどんな感じですか?
- A 朝7時から夕方5時まで、ずっと和紙作りの仕事をしています。
- Q ほかと比べ奈良のいいところはどこ?
- A 山や川があり、自然が豊かで気に入っています。
- Q 現在の暮らしで大変なことは?
- A 生活の環境はよいと思いますが、交通の便が悪いのは大変ですね。



お客さんの新しい要望にも挑戦して行きたいですね。
紙漉き職人 植浩三さん

吉野町 Yoshino-Cho

定住

蒸し、樹皮をばぎ、きれいな水にさらして白さをだす。繊維を解した後は、他の素材を加えて原料に。1日200枚ほどの和紙を、一枚一枚丁寧に漉いていく

人生という名の旅路は
まだまだ続きそうです。
食事処 きなり亭 料理長
吉川隼人さん



下北山村 Shimokitayama-Mura

京都

15年の料理修行の後に、たどり着いた「境地」。

吉川さんが里山の魅力に惹かれたのは京都の料亭での修行時代。いつか田舎で自分の店を持ちたいと考えていたそう。修行に一区切りがつき、食と人との関わりや本当に自分が求めるものは何かを見つめなおすため移住を決意した。当初「生活のために」と始めた現在の仕事だが、今の場所ですべてのことができることをやる事が、自分が求めているものではないか、と考えたそう。現在は、料理の中に今まで培った技と創意工夫を注ぎ込む日々を楽しんでいるそうです。

★食事処 きなり亭(下北山スポーツ公園内)

下北山温泉「きなりの湯」内のお食事処。名産品「春まな」を生かした創作料理など、吉川さんのアイデアが溢れる料理が味わえる。

☎07468-5-2001 吉野郡下北山村上池原282 園11時30分~21時(L020時30分) 休第2・第4火曜



Q 移住の前と後で印象は変わりましたか?

A 以前からちよくちよく遊びにきていたので、印象が変わったというのはないですね。相変わらず、よい田舎です。

Q 移住してよかったことはなんですか?

A 仕事中心から生活中心に変わり、充実しています。畑いじりやマキ割も健康的ですね。あと、いい御宮が多いのも楽しみです。

Q 移住を考え中の人にアドバイスはどうぞ。

A いきなり家を買ってしまったら、すると大変なので、地域をしっかりと見からほうがいいと思います。



下北山村特産「春まな」を練りこんだパスタに、5時間かけてコンフィしたアマゴをのせて。身を崩し、混ぜて食べると美味とのこと



農家経営
坂手 真さん・司さん

野迫川村
Nosegawa-Mura

和歌山県

開発されていない環境が
逆にビジネスチャンス。

和歌山県で、樹木精油の会社に勤めていた坂手さん。カナダのモントリオールで2年半ほどファームステイを経験するなど、以前から農業に興味があったそう。初めて村を訪れたのは6年前。村の臨時職員に応募し、役場で知り合った奥様と結婚、移住となった。営農（農業で生計を立てる）をスタートさせたのが2年前で、今は軌道に乗せるために日々奮闘中だそう。「今はまだ大変ですが、厳しい環境だからこそ逆にチャンスがある」と意欲を燃やしている。

- Q 1日のスケジュールはどんな感じですか？
A 6時30分起床、7時30分始業、19時まで仕事、24時就寝といった感じですね。農業なので、あまり決まってないですね。
- Q 移住してきて変わったことは？
A 無駄遣いや余分な外出が減りました。野菜などを貰えるので助かりますが、交通の便が悪いので買い物は不便です。
- Q 移住を考え中の人にアドバイスはどうぞ。
A 田舎は地域の人の付き合いが大事ですね。事前に役場の担当者やコミュニティセンターを回るのもいいと思います。

★やまからな

コウヤマキの挿し木以外にも、野迫川村の豊かな自然を感じられるランチョンマットや名刺ケースなどの木工雑貨がいっぱい。

☎070-5650-5578 西奈良市餅飯殿町12(夢CUBE内) 営10時~18時(金~日は19時迄) 関木曜



「森しかない村」で、
ゼロからイチを生み出す。



結果はわかりませんが、
必死でもがいています。

野迫川村ふるさと復興協力隊員
長谷川桂二さん

野迫川村
Nosegawa-Mura

東京



高野山周辺に多数植林されていて、霊木とされるコウヤマキ(高野槇)。ご自宅にいかが？

- Q 奈良に戻られて印象は変わりましたか？
A 奈良に仕事で長期滞在したこともあり、また野迫川村にも仕事で何度も来ていたので、そこまで印象の変化は無いですね。
 - Q 野迫川村に赴任して大変なことは何ですか？
A 仕事の面では苦労の連続。自然環境はともいいますが、僻地なので不便ですし、生活物資の調達が出来ないのは大変です。
 - Q 移住を考え中の人にアドバイスはどうぞ。
A 東京でも奈良市でも野迫川村でも仕事や生活が大変なことは緒で住めば都。自分が気に入った所に住むのがいいと思います。
- 東京や大阪でテレビ関係の仕事をしてきた長谷川さん。「未知の世界に挑もう」と職を探し、紹介されたのは野迫川村での地域活性。森以外何も無いこの村で、何を仕事にすればいいのか、と悩んでいたところ「コウヤマキ」に出会ったそう。挿し木なら1年半で20cmほどに育ち、観賞用として楽しめるという。「この木の他にも、吉野杉や檜の木工雑貨を扱っています。」と長谷川さん。2014年には奈良市内にショップもオープン、未知への挑戦は始まったばかりだ。

営みの要件を再考する。

橿原市に生まれ生駒市で育ち数々の転居を経た黒岩さん。辿り着いたのは十津川村にある玉置神社だった。今はここで、神社に奉職されている方々や山岳修行者に料理を振舞いながら暮らしている。「皆様が奉獻されたものを食べるまでが神事です」と黒岩さん。豊かだが厳しい自然の中で培われてきた生き抜く知恵がここにはある。「あるがまま、自然と共に生きていく。そんな日々の生活の知恵を積み重ね、次世代に継承していきたい」と語ってくれた。



十津川村
Totsukawa-Mura

愛媛県

社寺賄い
黒岩大朗さん

- Q 移住の前と後で印象は変わりましたか？
A 変わらず奈良が好きです。
- Q 移住して大変だったことはありますか？
A 農業や林業、そのほか生きる知恵がなく、壁にぶつかったりもしましたが、集落の方々が手を差し伸べて下さいました。
- Q 移住を考え中の人にメッセージはどうぞ。
A 助け合いながら生活を営みましょう。吉野で育まれた生活の知恵を世界中に発信し、世界中が豊かになる様に、小さな出来事に歓喜して、共に心を通わせ次世代に繋げましょう。

★やなせ屋

蔵と離れの2棟があり、1日1組限定で気兼ねなく宿泊できる。夕食は、はず向かいにある「五條源兵衛」がおすすめだ。

☎0747-25-5800 五條市本町2丁目7-3 平日2名1室時1名12000円(蔵宿泊/素泊まり)

五條市
Gojo-Shi



江戸期の町家で、暮らすように過ごす。

そこにあるものだけで十分満たされる週末移住。

奥大和の奥の奥、十津川村の小さな集落に佇む、棟の古民家宿。美しい日本の原風景の中にあつては、まるで昔話の世界に迷い込んだよう。仕事を終えた金曜日、体ひとつでのエスケープ・トリップはいかが。

十津川村
Totsukawa-Mura

何にもないことが、豊かなんだと気づく。



★大森の郷

重要無形文化財の「大踊り」などの歴史と伝統が継承される地で、築100年余の古民家に暮らすように過ごす休日。

☎080-2543-5552 十津川村大字武蔵487 予約受付8時30分~17時 平日4名使用時1名8000円(素泊まり)



五條新町の文化財地区で、歴史を感じる奈良ステイ。重要伝統的建造物群保存地区に指定された五條新町で、由緒ある町家を改修して作られた棟貸しの宿。チェックインの後は、江戸時代にタイムスリップしたような風情ある町並みを散策してみるのもいい。

五條市
Gojo-Shi



★大野屋

築150年以上の町家を改築したレストラン、カフェ、ギャラリーの複合施設。公募で選ばれた人はここでお店を開くことができる。開業を考えている人、ぜひチャレンジを。

☎0747-22-4001 (五條市企業観光戦略課) ※詳細はお問い合わせください



新町通りの町家で、新たなチャレンジを。

まずはお試し。

移住体験スポット

移住・定住者たちの話を読んで、移住熱が高まっている人に朗報です。

奥大和には、既に移住を果たした人たちのコミュニティや、奥大和での暮らしを疑似体験できるような施設がいくつもあるので、現地の暮らしの情報収集や移住への心構えのために、ぜひ活用してみてください。



地元も外も老いも若きも垣根なしのコミュニティ。

山添村
Yamazoe-Mura

★かすががーでん

名古屋と大阪の中間点にあり、名阪国道に近いのでアクセスも便利。週末移住の情報収集や親子で田舎体験を楽しむための参加も大歓迎。

☎0743-85-0048 (山添村役場 ワンストップ窓口) 山添村大字春日704-1



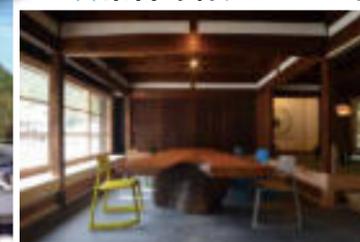
使い方はいろいろ。田舎暮らしの「体験教室」旧春日保育園舎を利用したコミュニティスペース「かすががーでん」では、月1回の農業体験イベントなどを開催している。近隣の畑に植えた野菜を収穫したり、その野菜をみんなで調理して食べたり、内容も様々なので、気軽に参加してみてください。

自然豊かなTime&Space
シェアオフィス&カフェ。

東吉野村
Higashiyoshino-Mura



★東吉野村シェアオフィス「OFFICE CAMP」



デザイナー坂本さんと村が協働してできた地域活性の拠点施設。憩いスペースや仕事場の提供、移住者への情報発信の場を目指している。

☎0746-48-9005 吉野郡東吉野村小川610-2 平日10時~17時 薪火・水団施設利用料:1日1人500円 ※定員10名